

競技ルール

この章の記事は、特に断りがない限り、本ルールブックに記載されているすべての大会に適用される。用語の詳細については付録を参照。

競技開催の可否（大会前日・当日・試合中）

1. コンテストディレクターとヘッドジャッジが、大会会場の波のコンディションをみて、競技可能かどうか判断し、オフィシャルコールを行う。複数ディビジョンがある大会の場合、各ディビジョンのヘッドジャッジとコンテストディレクターが判断する。
2. 男子、女子の競技順について、ヘッドジャッジと協議し、コンテストディレクターが決定する。
3. 男子女子ともに競技可能なコンディションと判断された場合、競技順についてコンテストディレクターとヘッドジャッジが決定したスケジュールに対し抗議することはできない。
4. コンディションが急変し、ヘッドジャッジとコンテストディレクターによって、競技可能な波がなくなったと判断された場合、ヒートを中断する。

オフィシャルコール

1. 大会開始前のオフィシャルコールは、JPSAウェブサイト上に発表される。
2. 大会期間中のオフィシャルコールは、大会会場に設置されたインフォメーションボードに発表される。天候不良など特別な事情によりインフォメーションボードの確認が困難な場合、JPSAウェブサイト上に発表されることがある。

ヒートチェックイン

1. ヒート表にクレジットされた選手は、ビーチマーシャルでヒートチェックインを行い、ゼッケンを受け取る。
2. ヒートチェックインは、直前のヒート開始時から、残り3分を切るまでの間に行う。直前のヒートの残り時間が3分を切った時点で、ヒートチェックインが終了される。
3. 時間内にチェックインしていない選手はヒート出場権を失い、ビーチスタンバイ選手一覧の最下位となる。
4. チェックインを済ませた選手は、その場でゼッケンを着用し、ヒート終了後にビーチマーシャルでゼッケンを返却する。特別な理由がない限り、ヒートに参加する選手はビーチマーシャル以外でゼッケンを着脱することはできない。

ヒート開始と終了

1. ヒートに参加していない選手は、進行中のヒートのジャッジングを妨げないエリアに留まる必要がある。
2. ヒート開始時に1回、中断時および終了時に2回のホーンが鳴る。ホーンが使用できない場合、ビーチアナウンサーによって「スタート」、「終了」が宣言される。
3. 音声によって、ヒート終了3分前の宣言と、カウントダウンが行われる。
4. ヒート時間はタイムパネルに表示される。タイムパネルは、「緑」が「ヒート開始・進行中」、「黄色もしくは赤」が「残り時間5分以下」を表す。
5. ヒート終了の10秒前から音声によってカウントダウンし、0秒の時点で終了ホーンが鳴る。ホー

- ンの鳴り始め、またはビーチアナウンサーによる「終了」宣言の頭がヒート終了となる。
- ヒート中、ライディングがカウントされるには、選手の手がボードのレールから離れ、しっかりと波に乗っていると判断される必要がある。ヒート開始ホーンが鳴る前に手が離れているもの、または終了ホーンが鳴った時に手が離れていないものは、カウントされない。
 - ヒート終了後、次のヒートとの間にライディングを行なったサーファーや、ヒート終了後に意図的にラインナップに留まったサーファーには、ペナルティが課される場合がある。
 - ヒート開始前のライディングにはペナルティが課される場合がある。プライオリティールールの場合、最下位のプライオリティからのスタートとなる。
 - 特別な事情がない場合、ヒートとヒートの間は2分以内とする。
 - 試合開始5分前には競技エリアをクリーンにする必要がある。試合開始2分前になっても競技エリアをクリーンにしない場合、選手にペナルティが課せられる場合がある。
 - 決勝は、競技エリアに波のセットが来たタイミングを計って開始することが推奨される。

ヒート時間

- プロトリアルは15分、プロ本戦は20分を基本とする。
- 大会を期間内に終了させるため、コンテストディレクター、ヘッドジャッジなどによってヒート時間に変更される場合がある。
- すべてのヒートで、ヒート時間を示す計時装置はヘッドジャッジが管理する。
- ヒート開始後の時間延長は、原則として行われぬ。何らかの理由によりヘッドジャッジによってヒートが中断され、再開する場合、可能な限り中断前と同じ状態（残り時間、得点、順位、プライオリティを含む）で再開する。
※例外として、ヒート中の選手が誰もライディングをしていない、あるいはコンディションの変化によって続行が困難なとき、ヘッドジャッジの判断によって、同じスケールでリスタートを行う場合がある。（競技開催の可否：4を参照）
- ヒート時間が20分以下でヒート開始後10分を経過しても誰もライディングをしていない場合、または、ヒート時間が20分より長くヒート開始後15分を経過しても誰もライディングをしていない場合、ヘッドジャッジは以下のうちから選択しても良い。
 - 試合を継続する
 - スタート時のプライオリティシチュエーションで、再試合
 - 中断後、再試合
- コンテストディレクターの判断で、スケジュールの関係により再試合を行わない場合がある。
- インフォメーションボードで誤ったヒート時間を伝えられた場合、以下に従う。
 - 実際のヒート時間より長く伝えられていた場合、実際のヒート時間が経過してヒート終了した後、全員がラインナップにいる状態から、伝えられた時間までの残り時間分を再開する。
 - 実際のヒート時間より短く伝えられていた場合、ヒートはそのまま実際のヒート時間まで継続される。
- ヒートスケジュールはコンテストディレクターによって管理される。ビーチマーシャルのインフォメーションボードによって告知される。それ以外によって誤った情報を伝えられ、ヒートに間に合わなかった選手は、抗議できない。ただし、ディレクターによって誤った情報を伝えられた、または、何らかの正当な理由によりヒートに間に合わなかった選手がいた場合、ディレクターの判断により再試合が行われる。

ヒート中の障害と中断

1. 安全を優先したコンテストディレクターまたはヘッドジャッジの判断により、ヒートが中断される場合、以下に従う。
 1. 連続2回のホーンがヒート中断の合図
 2. 状況により必要と判断された場合、ジェットスキーによって選手を海からあげることがある
 3. コンディションが改善し、試合が再開できると判断された場合、ヒートのシチュエーション（残り時間、得点、順位、プライオリティを含む）は可能な限り中断前と同じ状況で再開されるが、コンディションの変化によっては再試合となる場合もある。
2. ヒート中の選手がシャークアタックや危険を感じた場合、直ちに海から上がり、たとえヘッドジャッジが確認できていなくても、直ちに試合を中断する。
3. リプレイにより誤審が発覚した場合、関係する選手は再試合を要求できる。再試合が行われた場合、その結果が公式のリザルトとなる。
4. 不測の事態が生じて中断されたヒートの場合、大会運営がそのヒートの再試合をするかを判断する。
5. コンテストディレクターまたはヘッドジャッジは、ヒートを一時中断し、ヒート結果に影響を与える可能性がある出来事を確認することができる。確認後は以下に従う。これらはヘッドジャッジとコンテストディレクターが協議し、ビーチアナウンサーにより選手に伝えられる。
 1. 結果に影響を与えないと判断された場合、中断したシチュエーションから再開する。
 2. 結果に影響を与えると判断された場合、ヒートは再試合となる。
6. 音響システムの不具合により、選手にホーンやビーチアナウンサーの音声が届かなくなった場合、ヘッドジャッジとコンテストディレクターの判断により、試合を中断することがある。選手にはタイムパネルで伝達される。再開については第1項に従う。

ウェーブカウント

1. ノンプライオリティルールのヒートではマキシмумウェーブカウントは15本、プライオリティルールのヒートでは無制限とする。
2. マキシмумウェーブを乗り終えた選手にはビーチアナウンサーによりアナウンスされる。それ以上ライディングを続けた場合、各ライディングに対しペナルティが課される場合がある。

得点集計と順位

1. 得点集計は以下に従う。
 1. 各ジャッジのうち最高点と最低点は切り捨てる。
 2. その他の点の平均がライディングの得点となる。
 3. ライディングのうちベスト2本の合計得点がヒートスコアとなる。
2. ヒートスコアが同点の場合は以下に従う。
 1. 選手の次のベストウェーブを比較する。
 2. すべてのライディングの得点が同点で、ヒートスコアが0点でない場合、ヒートのシード順が高い方が高順位となる。＊ヒートスコアが0点のとき、ヘッドジャッジによって、ライディング可能な波が来なかったと判断された場合には、再試合を行うことがある。
3. ヒート参加者が2名しかいない場合、そのヒートは行われず、得点は0点となる。シード順が高い方が高順位となる。

選手による抗議（プロテスト）

ヘッドジャッジに対する抗議は後述の「プロテスト」項目の手順に従う

アナウンス

1. ビーチアナウンサーは、基本的な競技ルール、サーフィン知識を理解している必要がある。
2. ヘッドジャッジは、コマーシャル、勝利者インタビュー時などに、協議進行の妨げとなると判断した場合、音声を抑制する（サウンドブラックアウト）ことができる。
3. ビーチアナウンサーは、ジャッジがスコアを確定するまでアナウンスしてはいけない。
4. スコアやシチュエーションは、ヒート中、継続してアナウンスすることが望ましい。
5. ジャッジによるスコアの入力ミス、またはビーチアナウンサーによるミスアナウンスに対しては、選手は抗議することができない。
6. 選手がシチュエーションコールを望む場合、以下のハンドシグナルを使用する。
 1. 片手をあげる：シチュエーション（スコア、ニードポイント）コール
 2. あげた腕をもう一方の手で掴む：タイムコール
 3. 両手を振る：プライオリティシチュエーションコール

サーフキャディールール

ヘッドジャッジとコンテストディレクターの協議によって、サーフキャディの使用が認められる場合がある。サーフキャディの使用は以下のルールに従う。

1. 選手は、自身のキャディと一緒にビーチマーシャルでチェックインを行う。また、キャディは絶対に進行中のヒートを妨げてはならない。
2. キャディは選手のスペアボード保持、折れたボードの回収などの目的で入水することを認められる。
3. キャディの入水することができる範囲は、ヘッドジャッジが判断する。
4. キャディがヒート中にライディングした場合、または他の選手の妨害妨害をした場合、キャディに対応する選手にペナルティまたはインターフェアレンスを課される。
5. キャディは選手と同様にルールブックの対象になる。ルールに従わない場合は、キャディに対応する選手にペナルティが課される。
6. 選手は、ヒート開始時に自身のキャディが保持しているスペアボードのみ使用できる。
7. 自身のスペアボード以外をキャディから受け渡され、使用してライディングまたは他の選手を妨害した場合、選手にインターフェアが課される。＊緊急時のウォーターパトロールによる救助（インパクトゾーンからの回避など）を除く。
8. キャディが選手へスペアボードを渡した後、パドルしてビーチへ戻る場合には折れたサーフボードを使用できる。
9. キャディがいない選手は、ビーチにスペアボードを用意する。

通信機器による指示

1. 大会関係者以外から、通信機器による指示を受けることはできない。

機材

1. ヒート中、サーフボード以外を使用することはできない（ジェットスキーなど）。コンテストディレクターにはこれらの機材に関する使用許可権があり、従わない選手に対してペナルティを課すことができる。これは、公正な大会運営のための裁量の判断でなければならない。

ロングボードの規定

1. ノーズからテールまでの長さが9フィート以上であること。
2. もっとも幅のある部分、テールから12インチ上の部分、ノーズから12インチ下の部分の合計幅が47インチ以上であること。
3. 複数のフィンを使用してもよい。

服装

1. 選手はヒート、インタビュー、表彰式および大会運営からの要請に基づき、JPSAによって提供されたゼッケンを着用する義務がある。
2. タオルなどによって、ゼッケンを覆うことを禁じる。
3. ゼッケンの着用義務を除いて、選手の着用物の制限はない。
4. インタビュー、および表彰式にはサーフボードを持ち込めない。

その他の大会規約

1. 入賞者にはトロフィーが用意される。
2. 特に指示がなければ、大会エリアは禁煙。
3. 選手エリアには、大会出場選手以外は自由に立ち入りできない。

水中カメラマン

1. 水中カメラマンのガイドライン
 1. JSPAから許可を得たカメラマンだけが、競技エリアで入水できる。
 2. カメラマンはヘッドジャッジの指示に従う。
 3. スチルカメラの場合、135mmまたはそれ以上のカメラレンズのみを使用可能。
 4. 動画撮影の場合、50mmまたは35mm相当焦点距離のレンズを使用すること。

ダブルバンク

1. 期間内に大会を終えることを目的として、コンテストディレクター、ヘッドジャッジ、選手代表の同意の上、ダブルバンクを使用する。
 1. バンク間には必ずフリースペースを作る。
 2. パネルジャッジは最低3人とする。

大会期間の延長

1. すでに競技が開始されている大会では、大会運営と、勝ち残っている過半数の選手の同意のもと、イベントの延長が決定される。
2. 諸事情により延長期間に出場することができない選手は、相当のポイント、賞金を獲得することができる。

大会のキャンセル

1. 不可抗力またはコンディション不良により大会がキャンセルされた場合
 1. 大会初日のファーストコール以前であれば、支払ったエントリー費は返金される。
 2. マネーラウンド以前
 1. 勝ち残っている選手は、勝ち上がったラウンドに相当したポイントを受け取り、ラウンド賞金以外の賞金がある場合は既定額相当を受け取る。
 2. 敗退した選手は、敗退したラウンドに相当したポイントを受け取り、ラウンド賞金以外の賞金がある場合は既定額相当を受け取る。
 3. ヒートを行っていない選手は、一つ前のラウンドに相当したポイントを受け取り、ラウンド賞金以外の賞金がある場合は既定額相当を受け取る。
 4. 賞金に余りが出る場合は、勝ち残っている選手たちに均等に分配に分配される。
 3. マネーラウンド以降であれば、勝ち残っているすべての選手は、一つ前のラウンドに相当するポイントを受け取り、賞金は均等に分配される。

大会期間中の死亡・傷害事故

1. 大会期間中に死亡または重大な傷害事故が起こった場合、JPSAはすべての出場選手とミーティングを設ける。大会運営が、大会の続行またはキャンセルを決める。

プライオリティとインターフェアレンス

この章の記事は、特に断りが無い限り、本ルールブックに記載されているすべての大会に適用されません。詳細なフレーズや用語などは付録を参照してください。

インターフェアレンス

1. インターフェアレンスは過半数のジャッジがジャッジシートに記入した時点で宣言される。
2. 状況を把握していないためにインターフェアレンスに判断をできないジャッジがいる場合、ヘッドジャッジに宣言の決定権がある。

オーバーラッピングヒートでのプライオリティ

オーバーラッピング形式のヒートを行う場合、以下に従う。

1. プライオリティパネルはヒートごとに分かれて設置され、プライオリティシチュエーションはヒートごとにアナウンスされる。
2. ラインナップの位置に関係なく、先にスタートしたヒートの選手が、後にスタートしたヒートの選手より常に高いプライオリティとなる。
3. 別のヒートの選手による、スポーツマンシップを損なう行為があった場合、その選手にプライオリティがあるかどうかに関わらず、ジャッジの判断でインターフェアレンスを課される場合がある。ペナルティとしてセカンドスコアの半分がカットされる。
4. リスタートはできない。
5. 先にスタートしたヒートの選手と後にスタートしたヒートの選手が、同じ波にアプローチした場合、後にスタートした選手のプライオリティは失われない。（※先にスタートしたヒートの選手がハイプライオリティとなり、ライディングできる。後にスタートヒートした選手は、同ヒートの選手に対してプライオリティを行使したとはみなされない。）

マキシマムウェーブを超えたライディング

マキシマムウェーブを乗り終えてもラインナップにとどまる場合、以下の行為はインターフェアレンスとなる。

1. さらに波に乗り、他の選手のライディングを妨害した場合。
2. パドリング、ポジショニング、その他の理由で他の選手を妨害した場合。

ノンプライオリティシチュエーションの優先権

このルールは、ノンプライオリティルールと、プライオリティルール下でのノンプライオリティシチュエーションで適用される。

1. インサイドポジション（※波のピーク側）にいる選手が、優先的に波に乗ることができる。その選手に対して過度の波の取り合い（ハスリング）、リーシュを引っ張る、波のセクションを崩す等、スコアの妨げになる行為をした場合、インターフェアレンスが課される。
2. ノンプライオリティシチュエーションでの判断は、ヘッドジャッジに責任がある。
3. 波の優先権は、コンテストエリアの地形や海の状況によって若干異なるが、どちらの選手が先にテイクオフしたかではなく、波のポテンシャルがレフトかライトかに基づいて、どちらの選手がよりインサイドポジション（※波のピーク側）にいたかによって各ジャッジが判断する。

※例外として、テイクオフの時点でライト、レフトに同等のポテンシャルがある場合、その波の優先権は最初にターンした選手が得る。

4. ポイントブレイクのように、ブレイクポイントが1箇所の場合、インサイドポジション（※波のピーク側）にいる選手が、優先的に波に乗ることができる。
5. リーフやビーチブレイクで、地形によって一つのピークから左右両方にライディングが可能で、同等なポテンシャルの時は、最初に明確なターンをした選手に優先権がある。他の選手は、クロスステイクオフ等で優先権のある選手のライディングを妨害しない限り、反対方向へのライディングが可能。
6. リーフやビーチブレイクで、複数のピークにランダムに波がくる状況の場合、それぞれの波によってインサイドポジション（※波のピーク側）は微妙に異なる。

1. 1つのうねりに2箇所の離れたピークがあり最終的に1箇所で合流するとき、それぞれのピークでインサイドポジションに選手がいる場合、先にテイクオフした選手が優先権を得る。もう一方の選手は、相手の優先権を妨げる前にカットバックするか、キックアウトして波を譲らなければならない。
2. 2人の選手が別々のピークから同時にテイクオフし、ぶつかりそうになったとき、
 1. お互いに妨害にならないように両方がカットバックもしくはキックアウトで波を譲った場合、ペナルティは課されない。
 2. 衝突または妨害が起こった場合、ジャッジの判断により、波を譲らなかつた一方または両方の選手にペナルティが課されることがある。
 3. お互いに波を譲らずにライディングを終えた場合、両方の選手にペナルティが課されることがある。

スネーキング

このルールは、ノンプライオリティルールと、プライオリティルール下でのノンプライオリティシチュエーションで適用される。

1. インサイドポジション（※波のピーク側）からテイクオフした選手は、ライディング中その波に対して優先権を持つ。後ろから別の選手がテイクオフしても、先にライディングしている選手は優先権を持つため、ペナルティは発生しない。
2. 後ろからテイクオフした選手は、優先権を持つ選手を妨害したとみなされなければ、スコアされる。
3. 後ろからテイクオフした選手が、優先権を持つ選手をプルアウトさせたり、影響を与えるようなライディング（スネーキング）をしたとみなされた場合、後ろでライディングをしてもペナルティを課されることがある。

パドリングインターフェアレンス

このルールは、ノンプライオリティルールと、プライオリティルール下でのノンプライオリティシチュエーションで適用される。

1. 同じ波に2人以上の選手がパドリングしている時、インサイドポジション（※波のピーク側）にいる選手の妨害をしてはならない。
2. パドリングインターフェアレンスは次の場合に宣言される。
 1. インサイドポジションから波に乗ろうとしているサーファーと接触してパドリングコースを変えさせ、スコアリングポテンシャルに影響を与えた場合。
 2. インサイドポジションのサーファーの前で波を崩し、スコアリングポテンシャルに影響を与えた場合。
3. パドルアウト中のサーファーが邪魔にならない位置にいて、衝突がおこった場合、意図的かどうかによってジャッジが判断し、場合によってインターフェアレンスが宣言される。

プライオリティルールでの優先権

このルールは、プライオリティシチュエーションで適用される。

1. プライオリティルールでは、どの選手が優先的に波に乗れるかをプライオリティシステムによって決定する。プライオリティを持つ選手は無条件に、選んだ波にパドルして乗ることができる。他の選手は、以下のことをしない場合に限り、同じ波にパドルして乗ることができる。
 1. プライオリティを持つ選手のスコアリングポテンシャルを妨げる。
 2. プライオリティを持つ選手がライディングや、波をキャッチしようとしてパドリングをしている時に前を横切ったり、ボトムターンで追い越す。
2. プライオリティを持たない選手が上記に違反した場合、プライオリティインターフェアレンスが宣言される。
3. プライオリティインターフェアレンスを宣言された選手は、保持しているプライオリティを失う。プライオリティジャッジによって新たに優先順位をつけられる。

プライオリティ

1. プライオリティが発生する前は、ノンプライオリティルールが適用される。（→ノンプライオリティシチュエーション）

2. プライオリティはカラーパネルによって、海にいる選手から認識できるように、ゼッケンと同じ色で表示される。垂直パネルは海か見て上から下、水平パネルは海か見て左から右に順番が表示される。プライオリティが発生したら、選手はプライオリティパネルで自身のプライオリティを確認する。
3. 以下の行為をした選手は、その時点での最下位となるプライオリティが割り当てられる。（→ノンプライオリティシチュエーションでのブロッキングルール）
 1. インサイドポジション（※波のピーク側）にいる選手が、波に乗ると見せかけてパドルをし、他の選手が波をキャッチしようとするのを防ぐ行為。
 2. テイクオフゾーンにポジショニングを取り、他の選手が波をキャッチしようとするのを防ぐ行為。
4. ノンプライオリティシチュエーションでの激しい波の取り合い（ハッスリング）や、ラインナップ上にいる他の選手へのブロッキング、妨害などをした場合、プライオリティジャッジとヘッドジャッジの判断で、その選手に最下位のプライオリティが割り当てられることがある。また、激しすぎる行為やスポーツマンシップに反する行為とみなされ、インターフェアが課される場合もある。
5. プライオリティは、選手が波に乗るか、あるいは、波をキャッチするためパドルをして、乗れなかった時点で失われる。ただし、3、4人ヒートでは、以下のケースではプライオリティは失われない。
 1. より高いプライオリティの選手のとなりでパドルをして同じ波をキャッチした場合。
 2. より高いプライオリティの選手のパドリングやポジショニングによってブロッキングされた場合。
6. プライオリティシチュエーションでは、選手は常にプライオリティパネルを確認する必要がある。
7. インサイドポジションにいる選手が2または3番目のプライオリティで、相手がパドルをしたが波に乗れなかった場合は、インサイドポジションにいた選手が高いプライオリティ（相手の保持していた1または2番目）を引き継ぐ。お互いにパドルして波にのれなかった場合は2人ともプライオリティを失う。
8. 以下の場合、プライオリティジャッジまたはヘッドジャッジの判断によりプライオリティを失う。（→プライオリティシチュエーションでのブロッキングルール）
 1. プライオリティを持たない選手の前でパドルをし、その選手が波をキャッチするのを妨げた場合。
 2. テイクオフゾーンでのポジショニングによって、他の選手が波をキャッチするのを妨げた場合。
 3. 他の選手を波に乗らせないためだけに、波に乗った、もしくは乗ろうとしてパドルをした場合。
9. プライオリティをもつ選手がプライマリテイクオフゾーンの外でパドルをしている時、プライマリテイクオフゾーンに戻るまでプライオリティは一時的に失われる（→サスペンデット）。インサイドポジション（※波のピーク側）で板につかまって浮いている時も含む。さらに、そのままと戻らない場合、プライオリティを失う。
10. 過半数のジャッジがシチュエーションを見逃した場合でも、ヘッドジャッジはプライオリティインターフェアレンスを宣言できる。
11. ミスジャッジやプライオリティシステムの故障が疑われる場合、ヘッドジャッジとコンテストディレクターが相談し、決定する。場合によっては再試合も行われる。
12. プライオリティは、プライマリテイクオフゾーンに到達した順に割り当てられる。同時にプライ

マリテイクオフゾーンに到達した場合、以前にプライオリティを失っていた選手が先に獲得する。

13. ヒート終了と同時にプライオリティは無効となるが、終了間際に波に乗り、ヒート終了後もライディングを継続している場合、その選手の妨害をしてはいけない。インターフェアが起こった場合、プライオリティインターフェアとして扱われる。

14. サーフボードが折れてスペアボードと交換するために一度ビーチへ上がってきた場合や、セットを受けてプライマリテイクオフゾーンから流された場合、プライオリティはサスペンデットとなり、その選手はノンプライオリティの状態になる。選手が再びプライマリテイクオフゾーンへ戻った時点で、サスペンデットは解除される。

15. ワン・オン・ワンヒートのプライオリティは以下に従う。

1. ヒート開始前から波に乗らずにコンテストエリアにいた選手は、ヒート開始後、もう一方の選手が先に波に乗った時点で自動的にプライオリティを得る。
2. 2番目のプライオリティを持つ選手は、パドリングによってプライオリティを失うことはないが、波をキャッチして手がレールから離れた瞬間にはプライオリティを失う。
3. プライオリティは、プライマリテイクオフゾーンに到達した順に割り当てられる。同時にプライマリテイクオフゾーンに到達した場合、以前にプライオリティを失っていた選手が先に獲得する。
4. ヒート開始時にプライマリテイクオフゾーンにたどり着いていない選手がいた場合、もう一方の選手は自動的にプライオリティを得る。

16. 3人ヒートのプライオリティは以下に従う。

1. 最初に波に乗った選手はプライマリテイクオフゾーンに到達した順に、その時点のシチュエーションに従ってプライオリティを得る。
2. 残りの2人は、先の選手よりは優先的に波に乗れる。このシチュエーションの間、どちらかが波に乗るまで2人のプライオリティは失われない。（※ブロッキングルールは適用される。）
3. 2人目の選手が波に乗った時点でプライオリティが確定する。
 1. 波に乗っていない選手が1stプライオリティとなる。
 2. 残りの2人は、先にプライマリテイクオフゾーンに到達した順にプライオリティを得る。
 3. 1thプライオリティを持つ選手は他の2人より、2ndプライオリティの選手は3rdプライオリティより優先的に波に乗ることができる。
4. ヒート開始後に遅れてプライマリテイクオフゾーンに到達した選手は、到達した順に、その時点のシチュエーションに従ってプライオリティを得る。

17. 4人ヒートのプライオリティは以下に従う。

1. 最初に波に乗った選手はプライマリテイクオフゾーンに到達した順に、その時点のシチュエーションに従ってプライオリティを得る。
2. 残りの3人は、先の選手よりは優先的に波に乗れる。このシチュエーションの間、どちらかが波に乗るまで3人のプライオリティは失われない。（※ブロッキングルールは適用される。）
3. 2人目の選手が波に乗った場合、残りの2人は、先の選手達よりは優先的に波に乗れる。このシチュエーションの間、どちらかが波に乗るまで2人のプライオリティは失われない。（※ブロッキングルールは適用される。）
4. 3人目の選手が波に乗った時点でプライオリティが確定する。

1. 波に乗っていない選手がファーストプライオリティとなる。
2. 残りの3人は、先にプライマリテイクオフゾーンに到達した順にプライオリティを得る。
3. 1stプライオリティを持つ選手は他の3人より、2ndプライオリティの選手は3rd、4thの選手より、3ndプライオリティの選手は4thの選手より優先的に波に乗ることができる。
5. ヒート開始後に遅れてプライマリテイクオフゾーンに到達した選手は、到達した順に、その時点のシチュエーションに従ってプライオリティを得る。

インターフェアレンスペナルティ

1. プライオリティシチュエーションでインターフェアレンスを宣言された選手の得点は、（2ndベストウェーブが無効となり）ベスト1ウェーブのみになる。
2. ノンプライオリティシチュエーションでインターフェアレンスを宣言された選手の得点は、2ndベストウェーブが半分になる。
3. インターフェアレンスを宣言されたライディングの得点は0になる。
4. インターフェアレンスはジャッジシートに△で表記される。
5. 宣言されたインターフェアレンスが不正確な情報に基づいているとヘッドジャッジが判断した場合、ヘッドジャッジは変更や修正ができる。変更や修正の判断について、他のジャッジは議論を行わない。決定についての抗議はプロテストのルールに従って行う。
6. ノンプライオリティヒートで他の選手にインターフェアレンスをされた選手は、マキシマムウェーブが1本追加される（※ダブルインターフェアレンスの場合、お互いにマキシマムウェーブは追加されない）。水中カメラマンやPWCなど、外部からのインターフェアレンスに対しても、マキシマムウェーブの追加や、場合によってはヒート時間の延長などを、ヘッドジャッジが判断する。
7. 2回インターフェアレンスを犯した選手は直ちに海から上がる。従わない場合には、ペナルティが課される場合がある。選手の得点は以下に従う。
 1. 2回ともノンプライオリティシチュエーションの場合は、ベスト1、2ndベストウェーブがともに半分になる。
 2. 1回目はノンプライオリティ、2回目はプライオリティシチュエーションの場合、ベスト1ウェーブは半分になり2ndベストウェーブは0点になる。
 3. 2回ともプライオリティシチュエーションの場合、その選手は失格となり、不出場扱いとなる。
8. お互いにプライオリティが確定していない選手同士のインターフェアレンスは、その他の選手がプライオリティを持っているかどうかに関わらずノンプライオリティインターフェアレンスとなる。

ヒート中のスポーツマンシップに反する行為

9. プライオリティシチュエーションでの過度なハスリングにはインターフェアレンスが宣言されることがある。場合によっては追加のペナルティを課される。
10. たとえプライオリティを持っていても、プライマリテイクオフゾーンの外で、スポーツマンシップに反するような故意のプロッキング行為をした場合、プライオリティジャッジ、またはヘッドジャッジの判断によりインターフェアレンスが宣言されることがある。場合によっては追加のペナルティを課される。

11. ヘッドジャッジとコンテストディレクターにより深刻なスポーツマンシップ違反行為があったと判断された場合、さらに追加でペナルティが課される。問題の行為によってヒート結果や他の選手に影響があった場合、ヘッドジャッジとコンテストディレクターの判断によって再試合が行われる場合がある。

不測の事態

プライオリティや、その他、競技に関する予期しない事態が発生した場合、ヘッドジャッジ、コンテストディレクター、大会運営が相談し、決定する。場合によっては再試合も行われる。

PWC（ウォータージェット）使用ガイドライン

1. JPSAのすべての大会において、安全確保のために限り、選手は運営によって承認されたPWCを使用することができる。
2. ヒート中の選手が、安全確保のためにPWCを使用する場合、以下に従う。
 1. 選手および、選手のサーフボードにトラブルが発生し、安全確保のために必要な場合、PWCによる救助を要請できる。
 2. PWCによって救助された選手は、そのヒートに再度パドルアウトすることはできない。
 3. 搬送時点までのライディングスコアは有効となる。
 4. サーフキャディールールでは、キャディがPWCによって救助されても、選手には影響しない。
 5. 選手の要請に関わらず、PWCによって特に安全確保のために必要と判断された場合、救助を行うことがある。
3. PWCによって選手の怪我等が発生した場合、ヘッドジャッジの判断によりヒートを中断することがある。選手の医療検査が終了後、可能な限り中断前と同じシチュエーションから再開する。
4. 大会中、コンディション等の状況により、PWCアシスタントが認められることがある。
5. PWCアシスタント使用の判断は大会運営、ヘッドジャッジ、コンテストディレクターの話し合いの上、ディレクターが決定する。
6. PWCアシスタントが認められた場合、以下に従う。
 1. 選手は、ヒート開始前にPWCアシスタントによってプライマリテイクオフゾーンまで搬送される。
 2. 選手は、サーフボードにトラブルが発生した場合、状況により、PWCアシスタントによってビーチまで搬送される。
 3. 選手は、状況により、ヒート中にPWCアシスタントによってプライマリテイクオフゾーンまで搬送されることがある。
 4. ヒート中、プライオリティを持つ選手がPWCアシスタントを使用した場合、その時点でプライオリティを失う。

プロテスト

プロテストの申請と受理

JPSAヘッドジャッジに対するプロテストは以下の手順で行う。

1. 選手は、ヒート終了後ゼッケンを脱ぐ前に、ビーチマーシャルでプロテスト申請の意思を伝える

2. ビーチマーシャルは、プロテスト申請があったことをコンテストディレクターに伝え、以降のチェックインを中断する
3. 選手は、提出期限を確認してプロテストシートを受け取る
4. 選手は、プロテストを記入し、ビーチマーシャルに提出する
5. 記入後、ビーチマーシャルからコンテストディレクターに受け渡される
6. コンテストディレクターが、プロテストを受理するかどうかを判断する
 1. プロテストが受理された場合、現在進行しているヒートが終了した段階で、大会進行を一時中断し、協議を行う。
 2. 受理されなかった場合、コンテストディレクターから、選手にその旨を伝達する

協議

プロテストが受理されたら、現在進行しているヒートが終了した段階で、大会進行を一時中断し、協議を行う。

1. MCが、会場に対し、プロテストの受理と協議開始をアナウンスする
2. ヘッドジャッジとコンテストディレクターとJPSAが、プロテストの内容について協議を行う
3. コンテストディレクターが、会場に協議結果をアナウンスする

選手への回答

協議の結果は、以下の手順で選手に回答する。

1. プロテストシートへの回答書を作成し、ヘッドジャッジが確認の上、署名をする
2. 選手をビーチマーシャルに呼ぶ
3. コンテストディレクターが、選手に回答書をわたし、必要であれば回答について説明を行う
4. コンテストディレクターが必要と判断した場合、最大15分まで、ヘッドジャッジ同席の上で詳細な説明を行うことができる

大会エントリー

エントリー

1. スケジュールに示された大会のエントリー期間に、手続きを行う
2. 試合開始の1週間以内に、エントリー者一覧が発表される
3. エントリー者一覧に記載された選手はヒート表にクレジットされる

レイトエントリー

1. 大会のエントリー期間を過ぎると、レイトエントリー受付が開始される
2. レイトエントリー期間に受付を行った選手は、ヒート表にクレジットされず、ビーチスタンバイとなる

ビーチスタンバイ

ビーチスタンバイ選手は、ビーチマーシャルに一覧（レイトエントリー順）で掲示される。

1. ビーチスタンバイ選手は、プロトリアル、プロ本戦それぞれの選手集合時間に、ビーチマーシャル前にスタンバイする
2. 発表されたヒート表にキャンセルや、不出場が出た場合、ビーチスタンバイ者一覧の上位順に補欠（→オルタネート）としてヒートにクレジットされる。ヒートを勝ち上がった選手が、以降のヒートでキャンセルや不出場となった場合は該当しない。
 1. 現在進行しているヒートの残り時間が3分を切った段階で、次のヒートのオルタネート受付が行われる
 2. ビーチマーシャル前で、ビーチスタンバイ者一覧の上位順に名前を呼ばれる
 3. 名前を呼ばれた補欠選手は直ちにチェックインを行う。名前を呼ばれた際にチェックインしなければ、ビーチスタンバイ者一覧の最下位となる

返金

レイトエントリーをして、出場権を得られなかった選手には、試合終了後、エントリー費が返金される。

返金時の振込手数料は選手負担となる。通常のエントリー期間内にエントリーをした選手については、無断キャンセル扱いとなる。

薬物検査

大会開催時の薬物検査

大会開催時に、エントリー選手に対して薬物検査を行う。

1. 大会期間中、ビーチマーシャルで、検査の実施を通告する
2. 通告を受けた選手は、指定の時間、場所で検査を行う
3. 検査結果は、後日、該当選手に報告される。検査結果によっては、別途再検査を行う。

ジャッジング

ジャッジの選出

正式に認められたJPSAジャッジのみが大会でジャッジできる。

ヘッドジャッジの選出

各年度ごとにJPSA理事会によって選出される。

パネルジャッジの選出

各大会ごとに、ヘッドジャッジによって選出される。

ジャッジパネルの構成

5パネル

ヘッドジャッジ1名、パネルジャッジ7名（交代含む）、プライオリティジャッジ1名

4 パネル

ヘッドジャッジ1名、パネルジャッジ6名（交代含む）、プライオリティジャッジ1名

3 パネル

ヘッドジャッジ1名、パネルジャッジ4名（交代含む）、プライオリティジャッジ1名

分割パネル（ダブルバンク）

エントリー数や大会進行の関係により、止むを得ず分割パネルを使用する場合、3パネル構成を使用する。

採点スケール

ライディングは0.0～10.0の間で、小数点以下第1位までの値で表す。

ライディングに対するスコアスケール

- 0.0-1.9 = プア
- 2.0-4.9 = フェア
- 5.0-6.4 = グッド
- 6.5-7.9 = ベリーグッド
- 8.0-10.0 = エクセレント

ジャッジクライテリア

ショートボード

選手は、以下のジャッジング基準にそって演技をしなければならない。

1. コミットメント（積極性）と難易度
2. 革新的で進歩的なマニューバ
3. メジャーマニューバの組み合わせ
4. マニューバの多様性
5. スピード、パワー、フロー

※ 得点基準のうちどの要素を重視するかは、ポイントの地形や当日の波のコンディションによって変動する。

ロングボード

選手は、ボード全体を活用し、伝統的なロングボードサーフィンで、コントロールされたマニューバを演じる必要がある。マニューバの難易度に加えスタイル、フロー、魅せ方の完成度が高いほど高得点を得る。加えて、ジャッジは以下の点を考慮する。

1. ノーズライディングとレールサーフィン
2. 波のクリティカルセクション
3. 技のバラエティ
4. スピードとパワー
5. コミットメント（積極性）
6. コントロール

7. フットワーク

※ 得点基準のうちどの要素を重視するかは、ポイントの地形や当日の波のコンディションによって変動する。

ジャッジングルール全般

1. パネルジャッジの間には仕切りを作る、または、十分に距離を取る。ジャッジがスコアやインターフェアレンスについて話し合わないようヘッドジャッジは注意する。
2. コンピュータ入力・手書きのジャッジシートに記入されたスコアやインターフェアレンスコールのミスは、ヘッドジャッジの確認のもと、修正する。
3. ライディングまたはその一部を見損ねたジャッジは、ジャッジシートの、そのライディングスコアに“M”と記入し、他のジャッジと比較し話し合い、後から点数をつける。
4. 予想外の事態（プライオリティや計時、その他を含む）が起こった場合、リサーフをするかどうかは、ヘッドジャッジまたはコンテストディレクターが大会運営と協議する。
5. パネルジャッジから異議があり、再評価に十分な証拠が認められた場合は、一度行われた審査、採点、ヒート結果の決定が変更されることがある。
6. ジャッジの決定事項に対するプロテスト（抗議）はヘッドジャッジとコンテストディレクター、大会運営代表のみが対応できる。パネルジャッジや選手のサポートスタッフはプロテストについての決定に関与してはいけない。
7. ジャッジは、大会期間中、メディアや一般人、選手等に、大会に参加している選手に関する助言をしてはいけない。このような行動をした場合、大会運営により直ちに審査される。
8. ヘッドジャッジはメディアインタビューに回答できる。

大会規律規定

大会に関する規律規定とペナルティーを以下に定める。

項目	内容	ペナルティー
1	ジャッジに対する暴行	罰金50万円／活動停止処分
2	ジャッジに対する不作法な身振り	罰金10万円
3	ジャッジに対する大声での罵り	罰金10万円
4	ジャッジ用紙を引き裂く	罰金10万円
5	ジャッジ用紙に書き加えを行う	罰金10万円
6	関係者席での大声での罵り	罰金10万円
7	大会スタッフに対する暴行	罰金50万円／活動停止処分
8	大会スタッフに対する罵り	罰金10万円
9	大会開催地・競技地域内の備品悪用	罰金10万円
10	大会所有物の破損	罰金10万円+実費
11	大会開催地内の器物破損	罰金10万円+実費／活動停止処分
12	ヒート中の暴力行為、破壊行為、威嚇や侮辱行為などにより競技進行を妨げた場合	罰金10～50万円／活動停止処分
13	大会期間中、暴力行為、破壊行為、威嚇や侮辱行為などによるサーフィンイメージの損害	当事者による専門機関を通じた事実確認が取れ次第、当連盟審査会で処分を科す 罰金10～50万円／活動停止処分
14	故意によるゼッケンの規定外着用	罰金5万円
15	ゼッケン不着用	罰金10万円
16	ヒート中の競技エリア内でのフリーサーフィン	罰金10万円
17	スポンサー、およびメディア関係者に対する暴行	罰金50万円／活動停止処分
18	参加すべき表彰式の欠席	罰金10万円／賞金没収／ポイント無し
19	参加すべき招集の欠席	罰金10万円
20	マキシマムウェイブのオーバーライディング	罰金5万円（1本につき）
21	大会期間中、フリーサーフィンでのリーシュコード不着用	厳重注意

用語集

選手

JPSAの要件を満たし大会に参加しているサーファー

ツアー戦

JPSAグランドチャンピオン決定のための年間ツアー。

ツアーランキング

男女別、ツアー戦の結果から構成されたランキング。

特別戦

ツアー戦に含まれない、ツアーランキングに影響しない試合。

プロ選手

JPSAツアー戦の出場資格がある選手。

アマチュア選手

JPSAアマチュア登録している選手

プロ本戦

プロ選手が出場するツアー戦。

プロトライアル

アマチュア選手が出場するツアー戦。

アマチュアランキング

プロトライアルでアマチュア選手が獲得したポイントからなるランキング。

アマチュアシード

前年のアマチュアランキングの結果に基づいて決定されるアマチュア選手のプロ本戦出場権。

シード順

前年またはその大会の直前までに選手が獲得したポイントによって割り振られる順位。

スポンサーシード

大会スポンサーによって指名されたシード選手

ローカルシード

開催地域によって指名されたシード選手

大会 (JPSA大会)

JPSA主催・公認の大会 (特別戦、トライアルも含む)

大会開始日

大会スケジュールに記載された最初の日。

大会期間

大会スケジュールに記載された最初の日からファイナル、表彰式を終了するまで。

大会スケジュール

JPSAウェブサイトに掲載された年間ツアーおよび特別戦の日程。

不可抗力の事態

イベントの遂行に影響を及ぼす全ての出来事、行為（政府や自然災害・人為的な損害や事故）洪水、雷、嵐、火事、爆発、地震、陥没、建物への被害、感染症などの身体的被害、戦争、軍事活動、暴動、電源故障又は不足、機械トラブル、飛行機の遅延又はキャンセル、自動車事故、ストライキ等。

これらの不可抗力の事態下で大会を行うかはJPSAの判断による。

エントリー費

JPSA大会に参加するために払うお金。

コンテストディレクター

大会に関して、ルールブックで参照される権利や、大会運営によって許諾された権利を持つ。大会運営からの要求に対し、ルールブックに従いながらその役割と責任を負う。必要に応じて権限を委任することができる。

警告

口頭で違反者に対し与えられる。大会運営は直ちに書面に記録をする。もし違反が続けばさらなる処分が課せられる可能性がある。

処分

制裁、口頭注意、書面による注意、出場予定の試合、ツアーからの除名など。これらの処分はJPSA規律規定および大会規律規定に従って決定される。

コンテストエリア

ヘッドジャッジによって決められたヒート中に使える範囲。ブイ・フラッグ・バナーなどが目印として置かれることもある。

補欠選手

エントリーされている選手が現れなかった時の補欠選手枠。

ビーチスタンバイ

大会参加を希望してビーチでスタンバイしている補欠選手。

キャディ（サーフキャディ）

選手からヒート中のサーフボードのバックアップを頼まれた人。
JPSAからの指示に従い、ルールを守る必要がある。
キャディーがルール違反をした場合は選手が責任を負う。

インサイドポジション

ラインナップの中で、最もブレイクポジションに近く波がくるであろうと思われるポジション。

インターフェアレンス（インターフェア）

選手がライディングしている時、その波に対する選手のスコアリングポテンシャルを妨げる行為。

インターフェアレンスコール

インターフェアレンスをしたというジャッジの判断。

ダブルインターフェアレンス

インターフェアレンスの責任が両選手にあるという判断。

ジャッジ

JPSAにより認められた、ジャッジパネルに座ることのできる人。

ジャッジペーパー

大会中スコアしたポイントをジャッジが記録するためのシート

ジャッジシート

選手のスコアやヒートの情報が記載されたシート。

ベストカウントウェーブ

ヘッドジャッジの判断による各選手のベストウェーブ2～3本の得点。

エアー

ライディング中に板が完全に空中に飛び出し着地させた技。

キックアウト

サーファーがライディング終える時や波の後ろに出る動き。

トップシードラウンド

大会中の最上位のシード選手がいるラウンド。

セカンドシードラウンド

トップシードラウンドの一つ下のシード選手がいるラウンド。

ロングボードツアー

JPSAによって実施されるロングボードのツアー戦。

ロングボード

9フィート以上でラウンドノーズのサーフボード。

ライディング

選手がサーフボードのレールから手を離れてから、演技を終えるまでの間。

マニューバー

選手が技術レベルを示すためのライディング中の動作。

スコアリングポテンシャル

ルールブックに示されるジャッジクライテリアに則った、選手が得点できるチャンス。

セクションブレイクダウン

インサイドポジションの選手に対し、パドリング又はライディングによって波を崩してしまう行為。

プローンポジション

サーフボードの上で腹ばいになった状態

ノンパドルテイクオフ

波のブレイクポイントで、パドリングをせずに波に乗ること。

プライマリテイクオフゾーン

プライオリティジャッジによって決定される、選手がライディングを開始する主要なラインナップのエリア。

プライオリティ

プライオリティジャッジによって判断される、選手のプライオリティ順。

プライオリティパネル

ジャッジエリアに配置された色分けパネル。次の波に対する、選手のプライオリティを示す。

プライオリティジャッジ

大会中のプライオリティを決定する責任者

プライオリティサーファー

その波に対し他の選手（彼より低いプライオリティの選手）より無条件で優先される選手

賞金

一定のラウンドまで勝ち上がった選手が獲得できるお金。支払い、金額はイベントによって異なる。

マネーラウンド

サーファーが賞金を獲得できるラウンド。

プロテスト

大会中の出来事や、ルールブックに基づいた決定事項に対して正式な抗議レポートを作成すること

選手エリア

出場選手用に、会場に設置されたエリア。 通称：アスリートエリア

喫煙所

喫煙を許可されているオフィシャルなエリア

タビュレータ

プリントアウトされたジャッジシートとジャッジペーパーを比較する担当の人

オフィシャルカメラマン

大会運営から認定を受けたフォトグラファー

帯同ドクター

JPSAメディカルコーディネーターとして公認された人。

大会関係者

ルールブックに基づいた権限を与えられた個人、またはJPSAによって採用、承認されたスタッフ。ジャッジ・役員・ボランティア等を含む。

JPSA事務局

イベント・ツアーのルールや権利を管理するJPSAオフィス。

JPSAルール

随時JPSAによってウェブサイトにはアップデートされ、JPSAルールブックに追加される